Webデザイン実習4B

2020/01/21

Kazuma Sekiguchi
class@cieds.jp

CM

- 2021年春卒業見込み生向け求人（現2年生向け）
  - 弊社（コムセントと言います）で募集しております
  - 求人票は学校に出したので、興味ある方は是非ご連絡ください（窓口は関口）
  - 不明な点とかあれば、何なりと聞いて下さい
  - 社員が全員工学院関係者になってしまった・・・。

- Webデザイナー（デザイン系）
  - Webデザインができること、HTMLとかできること。コミュニケーションできること
- フロントエンドエンジニア（コーダー系）
  - HTMLとかJSができること。プログラム嫌いじゃ無いこと
- バックエンドエンジニア（プログラム系）
  - プログラム嫌いじゃ無いこと

<html5 APIs Canvas>

画像データをアップロード

- var base64= canvas.toDataURL('image/png’);
  でCanvasに描いたデータをDataURL形式として取得する
- base64形式（DataURL形式）の文字列で取得できる
  - 文字列であるため、サーバーにアップロードが可能

サーバー側のサーバー受信

- ヘッダにPNGを示すものが残っているので、これを外す必要がある
  - dataURL形式はbase64形式でエンコードされているため、変形させる
  - 画像に変更が可能

```
<?php
//canvasデータがPOSTで送信されてきた場合
$canvas = $_POST["acceptImage"];

//ヘッダに「」が付いているので、それは外す
$canvas = preg_replace("/data:[^,]+,/i","",$canvas);

//残りのデータはbase64エンコードされているので、デコードする
$canvas = base64_decode($canvas);

//まだ文字列の状態なので、画像リソース化
$image = imagecreatefromstring($canvas);

//画像として保存（ディレクトリは任意）
imagesavealpha($image, TRUE); // 透明色の有効
imagepng($image ,'./test.png');
?>
```

Canvasのデータを保存

- ファイルとして保存させることも可能
  - 但し再編集とかはできない単なるJPEGまたはPNG画像になる

```
function saveCanvas()
{
	let canvas = document.getElementById(“stage”);
	//アンカータグを作成
	var a = document.createElement('a');
	//canvasをJPEG変換し、そのBase64文字列をhrefへセット
	a.href = canvas.toDataURL(‘image/jpeg’, 0.85);//image/pngまたは書かなければPNG画像
	//ダウンロード時のファイル名を指定
	a.download = 'download.jpg';
	//クリックイベントを発生させる
	a.click();//Firefoxだと動作しないかも
}
```

LocalStorage

- ブラウザー内にkey=valueの形で任意のデータを保存することのできる仕組み
- LocalStorageもJSから利用する
  - HTML5対応ブラウザのみ利用可能な点注意
  - LocalStorageは永久保存（ブラウザから明示的にクリアされたら終わり）
    - 開発者ツールから任意のデータを削除することも可能
  - SessionStorageはブラウザを開いている間だけ有効

```
//localStorageへの保存
localStorage.setItem(“productName",”Xperia");
localStorage.setItem(“productPrice",”65000");

//localStorageからの読み出し
localStorage.getItem(“productName”);//Xperiaが取り出せる
```

LocalStorageの保存

- 基本的にはkey=valueの形で投入する
  - 例えば、「name=“ミク”」という形
  - 同じkey名のものは投入できない（投入すると上書きになる）
  - 複数のデータを投入可能であるが、上記制約があるため、違う名前にする必要がある
  - JSONデータをぶち込む、という乱暴とも言える方法で複数データ（同一のKey名も可）を投入することも可能
  - そのままでは無理なので、JSONデータを文字列に変換する（JSON.stringify()メソッドを利用）
  - データを取り出して利用する時にJSON.parse()メソッドを使うことで、JSONデータに戻すことが可能